

氏名(本籍)	林 家 華 (台 湾)
学位の種類	博士(デザイン学)
学位記番号	博 甲 第 5453 号
学位授与年月日	平成 22 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	<b>Visual Design System for the Interpretation of National Parks</b>
主 査	筑波大学准教授 博士(工学) 山本 早 里
副 査	筑波大学教授 博士(デザイン学) 西川 潔
副 査	筑波大学教授 農学博士 鈴木 雅 和
副 査	愛知県立芸術大学教授 長谷 高 史

## 論 文 の 内 容 の 要 旨

### (目的)

今日の国立公園においては、自然の保護だけでなく訪問者のためのインタープリテーションが重要であり、そのためにビジュアルデザインが果たす役割は多大である。本論文は世界各国、特にアメリカ、イギリス、日本、台湾の国立公園におけるインタープリテーションのためのビジュアルデザインの実状や管理運営方法を比較検討し、台湾において相応しいビジュアルデザインの管理運営モデルを提案することを目的としている。

### (対象と方法)

23カ国の国立公園の管理運営方法を収集資料によって分析したところ、主に3種に分類されたため、それぞれ1カ国、つまりアメリカ、イギリス、日本、これに加えて台湾の4カ国において、ビジュアルデザインの運営システムおよびビジュアルデザインの実態を収集資料の分析、現地調査およびヒアリング調査によって考察した。

### (結果と考察)

第1章“Historical Development of Visual Design for the Interpretation of National Parks”では、アメリカ、イギリス、日本、台湾の国立公園の歴史的背景およびインタープリテーションの取り組みとビジュアルデザインの変遷を明らかにした。各国の国立公園の運営方法を整理した結果、アメリカは1933年にNational Park Service (NPS) が再編成されたので強力なリーダーシップが図られており国家管理型、イギリスは各地域で管理がなされておりかつNGO団体の歴史が古いため地域管理型、日本は観光産業が古くから盛んであるため地域個別管理型であることを示し、台湾は国立公園の歴史的変遷が日本と類似しているがビジュアルデザインの管理体系はイギリスに似ていることを指摘した。

第2章“Visual Design Guidelines for the Interpretation of National Parks”では、4カ国の国立公園を管轄する機関が発行しているデザインガイドラインを分析した。その結果、アメリカではNPSがビジュアルデザインの強力な管理を行っていること、イギリスでは国立公園を管轄する機関であるAssociations of National Park Authorities (ANPA) がビジュアルデザインの規制を特に行っていないこと、しかし現在ガイドライン

を作成中であること、日本では環境省が国立公園における視覚的表現の管理のためサインや文字のガイドラインを発行していること、台湾では中央機関によるビジュアルデザインに関する公式の規制がないことを示した。

第3章“Filed Investigation”では、4カ国の国立公園におけるビジュアルデザインの現状を次のように明らかにした。アメリカではHarpers Ferry Center (HFC) がビジュアルデザインの実施やインタープリティブメディアの展開を行っていた。全国のビジュアルデザイン、特にパンフレットのデザインはよく管理・統一されているながらも、各国立公園に配置されているデザイナーの独自のアイデアが入る余地もある。イギリスでは、各国立公園の本部が各々のビジュアルデザインを統括しているが、各地域団体と一緒に作り上げることが多いため、地域の特徴が強調されている。日本では、ビジュアルデザインの管理をするデザイン部門がないが、環境省がサインと文字に関する規準を出している。ただし、各公園が管理を行っており、各々別の企業がこれらのメディアデザインを担っているため、インタープリテーションのデザインが統一されていない。台湾では、管理体系はイギリスに似ているが、地域との連携が弱く、個々の国立公園が独自にビジュアルデザインの計画をしており、その表現はほとんど体系化されていない。

第4章“Characteristics Analysis”では、以上の調査から各国のビジュアルデザインの運営システムを、アメリカは“Coherence Identity Operation System”、イギリスは“Compound Community Operation System”、日本は“Continuity Image Operation System”、台湾は“Individual Feature Operation System”と名づけ特徴づけた。

第5章“Proposal of Visual Design System for Taiwanese National Parks”では、調査および考察からビジュアルデザインがインタープリテーションに果たす役割を再考したところ、従来の役割であったインタープリテーションの促進から、自然体験、アイデンティティの創出を経て、将来はマルチメディアを利用してバリアフリーを実現したり、仮想体験を実現したりするまでになるであろうことを指摘した。さらに、台湾の国立公園におけるビジュアルデザインのあり方を検討した。

第6章“Conclusions”では、以上を総括し、アメリカ、イギリス、日本、台湾の国立公園におけるビジュアルデザインの管理運営方法およびそれぞれのビジュアルデザインの特徴を明らかにしたこと、インタープリテーションとビジュアルデザインの関係を示したこと、台湾における国立公園のビジュアルデザインのあり方を示したことを本論文の成果とした。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、国立公園のインタープリテーションを実現するためのビジュアルデザインに焦点を当て、ビジュアルデザインの管理運営方法の類型化を行いデザインの特徴を明らかにした。パークマネジメントの分野ではこのようなビジュアルデザインの管理に関する研究は類がなく、一方でビジュアルデザインの研究分野においても管理運営方法に言及した論文は少ない。着眼点の独創性、新規性が秀逸なだけでなく、これらの分野の学術進展に寄与し、有用な信頼性のある結論が得られていることは高く評価される。また、4カ国で現地調査やヒアリングを行い、入手しがたい資料を収集したことは特筆すべき点である。さらに、分析した管理運営方法をわかりやすく図に示すなど、その高い表現能力も指摘しておく。台湾における国立公園のビジュアルデザインの管理運営方法の提案にとどまっているが、今後さらに踏み込んでデザインガイドラインの提案までなされることが期待される。

よって、筆者は博士（デザイン学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。